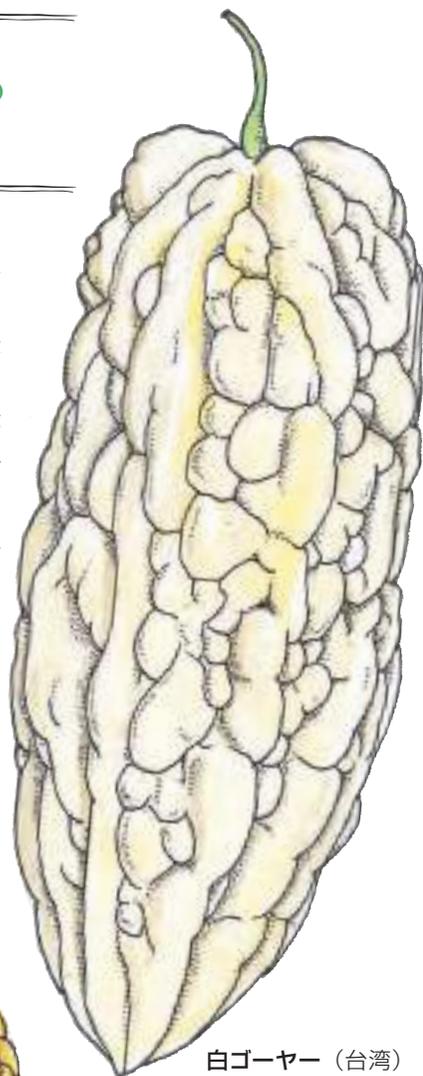


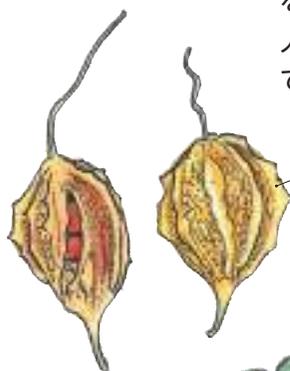
食べるのはいつ？

もりぐち みつる
盛口 満
沖縄大学学長
通称、
ゲッチョ先生

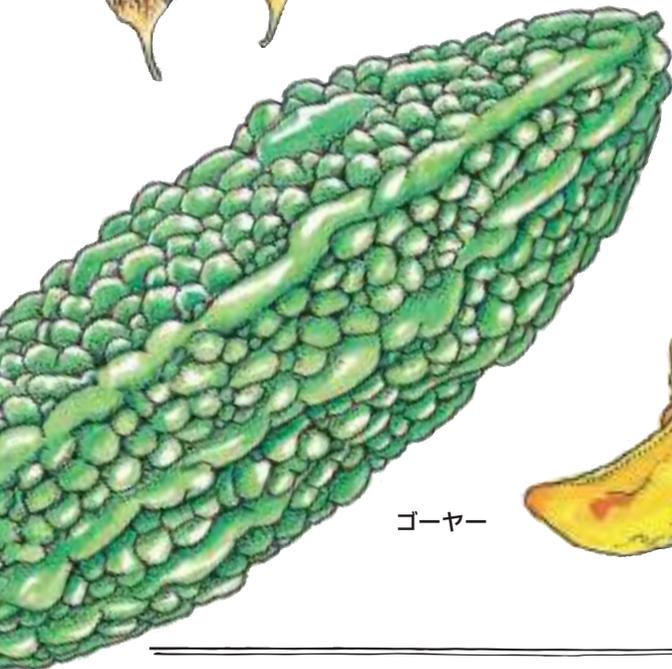
ゴーヤーは好き？
食べているゴーヤーは、じつはまだ、若い実なのです。
畑で熟したゴーヤーは黄色くなって、中から赤い皮につつまれた種子が顔をだします。
こんなに目立つ色をしているのは、ゴーヤーが種子まきをしてもらうために、「食べて」と信号をだしているから。
人間は、わざわざかたくて苦いゴーヤーを食べているのです。



白ゴーヤー（台湾）



野生のゴーヤー
畑で栽培しているゴーヤーより、
ずっと小さい。



ゴーヤー



熟したゴーヤーは黄色くなり、実は裂ける。中から赤く甘い皮につつまれた種子がでてくる。



見てびっくり野菜の植物学
ゲッチョ先生の野菜コレクション
盛口 満：文・絵 少年写真新聞社：発行
B5判64ページ 1800円+税

絵を見せながら、野菜のふしぎを子どもたちに語りかけるのもってこいの科学絵本です。菜園をもっていないとなかなか気づかない、見る機会のない子どもたちに野菜の本当の姿を伝えることができます。

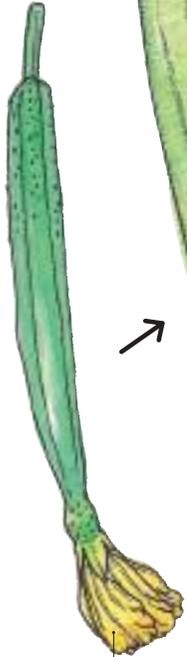
少年写真新聞社発行の「ゲッチョ先生の自然誌コレクション」シリーズ『見てびっくり野菜の植物学』から一部を転載して、ご紹介しています。このページの教育用コピー配布もご了解いただいていますので（商用利用不可）、自然観察にご活用ください！

日本自然保護協会

ヘチマの若い実も、九州南部や沖縄などでは野菜として食べる。

ヘチマ

ヘチマの実^{じゆく}は熟すと茶色になってしまう。これは、自分で種子^{せんし}まきをするために、目立つ必要がないから。



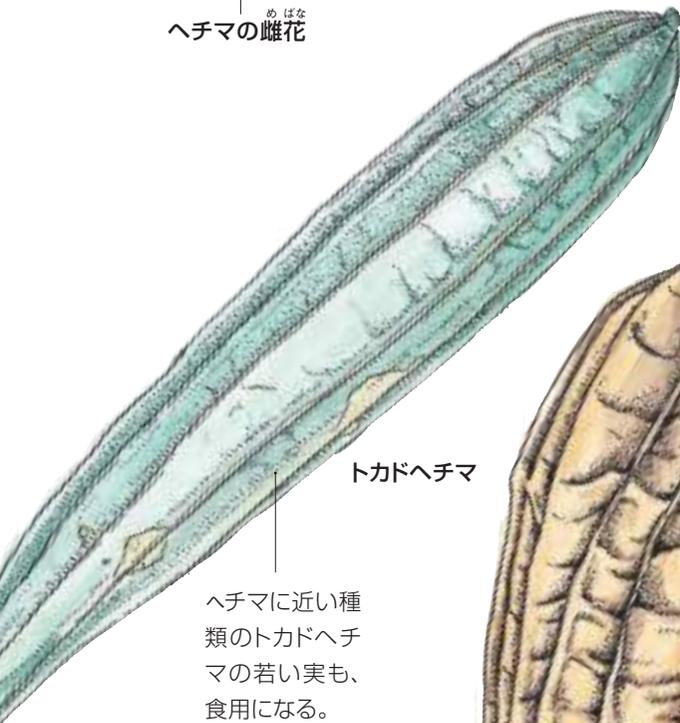
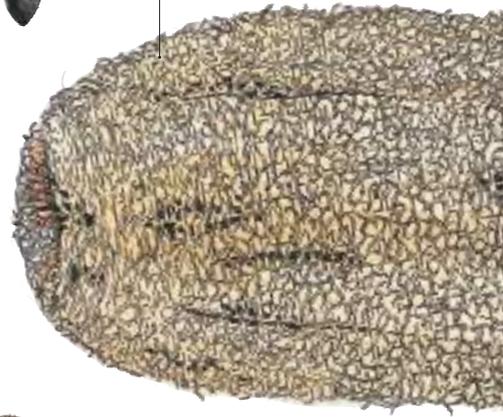
めばな
ヘチマの雌花



じゆくしたヘチマの実の中は、せんいしつになっている。



じゆくしたヘチマの実の先端^{せんたん}はずれ、中から種子^{せんし}がバラまかれる。



トカドヘチマ

ヘチマに近い種類のトカドヘチマの若い実も、食用になる。



アフリカ・マダガスカルで見た、野生のヘチマの実。栽培されているヘチマよりも、ずっと小さなものだった。